

平成28年度 江北図書館文庫フォーラム

伊香農学校
郡制廃止の中で
の県立移管
=土功を中心に=



平成29年3月25日（土） 於 木之本公民館

学校概要

明治29（1896）年 組合立伊香農業補習学校 千田

明治33（1900）年 郡立伊香農業補習学校

明治35（1902）年 乙種伊香農学校 木之本

明治39（1906）年 郡会 県立移管建議書採択

★明治末の県立学校（含移管）7校 現在は65校

明治 9年 彦根中学校（彦根東）○

明治19年 滋賀県商業学校（八幡商業）○

明治19年 私立淡海女学校（彦根西）○

明治21年 組合立寺庄高等小学校（甲南）

明治29年 長浜農学校（長浜農業）○

明治31年 滋賀県第二尋常中学校（膳所）○

明治35年 大津高等女学校（大津）○

明治38年 市立大津実業補習学校（大津商業）

明治38年 町立日野裁縫学校（日野）

明治40年 神崎実業学校（八日市・八日市南）

明治41年 水口農林（水口）○

明治43年 郡立愛知実業学校女子部（愛知）

明治44年 町立長浜実科高等女学校（長浜北）

進む県立化・県立学校設立

★大正9年

県立学校 虎姫 今津 彦根工業
八日市

県立移管 大津商業

★大正10年 郡制廃止決議

★大正11年

県立学校 栗田農 (草津)

県立移管 伊香農 神崎商業

愛知女学校 長浜女学校

日野女学校

県立移管の条件

○校地 1 万坪の提供

○5万円の寄付 建設費25万円

大正10年 通常県会会議録第5号より

夫レカラモウーツ伊香郡ニ程度ノ低イ農学校ガアル。之ハアノ地方ノ湖北ノ状態カラ見マシテ、現ニ長浜ニ農学校ガアル。虎姫ニ中学校ガアル ~略~ 普通ノ農業ノ外ニ山林デアルトカ蚕種デアルトカ県トシテハ地勢上将来或ハ必要カトモ思ハレマス ~略~ 凡ソ現在ノ程度ニ県立学校ヲ設置スルコトニ致シマシタ。

(堀田義次郎 県知事 所信説明)

大	西暦	月日	土功・開校	その他
10	1921	4月		郡制廃止決議
11	1922	2月 7日	郡立伊香農学校廃止稟申	
		2月11日	文部省告示第53号県立伊香農学校開校認可	
		2月18日	滋賀県令第13号滋賀県立伊香農学校開校認可	
		3月31日	郡立伊香農学校廃止認可	
		4月 1日	旧伊香農学校敷地内に県立伊香農学校開校	
		9月 17日	郡長農学校敷地の奉仕作業敢行声明	
		9月22日	土功着手	
		10月 6日	堀田県知事視察	
		10月12日	第一期工期満了	
		10月15日	県立伊香農学校開校式	

県立伊香農学校 開校式案内状

伊香郡誌関係資料607

拜啓初秋白露之候愈御清榮奉大賀候借今回舉行セラル
ベキ縣立伊香農學校開校式ヲ好機トシテ左記各項ヲ執
行候條御高覽ノ榮ヲ得度此段御案内申上候 敬具

大正十一年十月二日

伊香郡長 松原五百藏

殿

記

十月十五日

自午前八時三十分
至午後三時三十分

青年大會

於農學校新敷地

自午前八時
至午後四時

郷土史料展覽會

於木之本實科高等女學校

同 正午十二時

學制頒布五十年記念
學藝品展覽會

於木之本小學校

十月十六日

自午前十一時卅分
至午後三時

小學校聯合運動會

於農學校新敷地

自午前八時
至午後四時

郷土史料展覽會

同

學制頒布記念展覽會

十月十七日

自午前八時
至午後二時

郷土史料展覽會

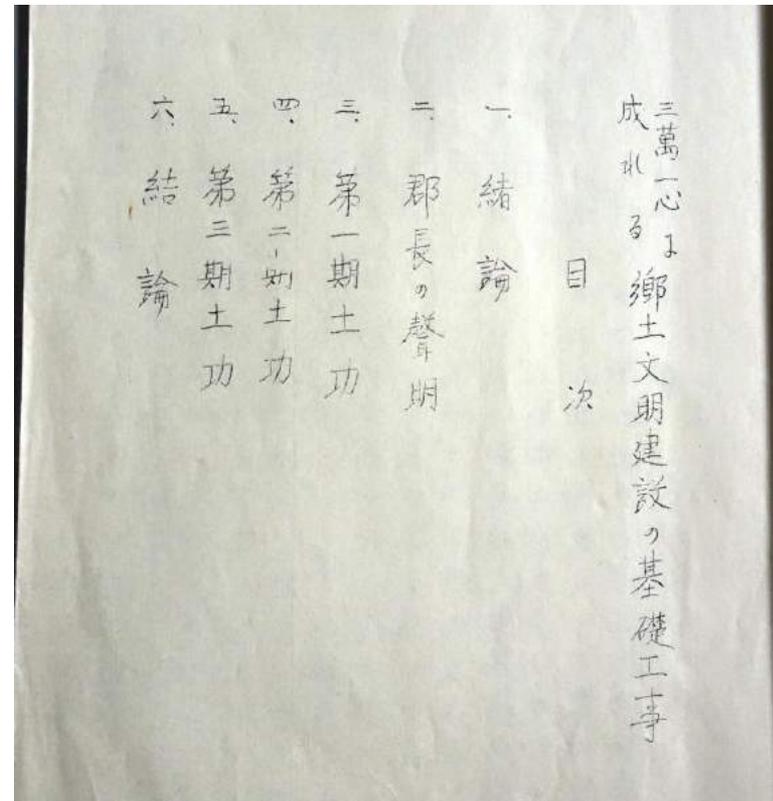
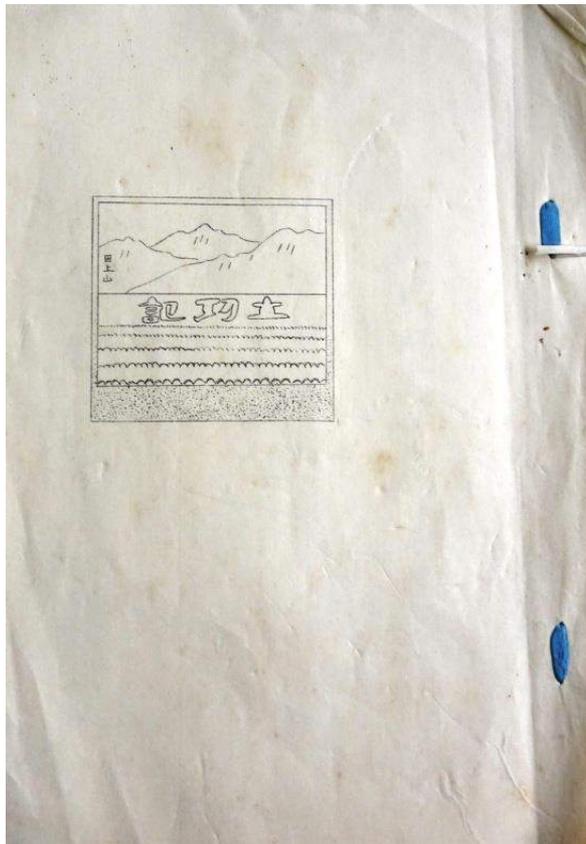
同

學制頒布記念展覽會

「土功記」の存在

伊香郡誌関係資料455

高橋 長晴 郡役所書記 伊香郡誌編纂



土功記より

伊香郡長 松原五百蔵の土功敢行の声明

- 一 我が農学校は、郡情に鑑み欠くべからざる教育機関である。今次制度廃止の機に方り、県立として開校を見るに至れるは実に本郡の要望を達したものである。従って新覺地の土功は、此際全部諸士に懇え、その労務奉仕によって遂行せねばならぬ。
- 一 郡制廃止と共に郡有財産の処分等解離的に処理する事項多く、郡としての団結力を減殺する虞れがある。然るに此の労務奉仕は、全郡三万民に倚るのであるから、自ら本郡の精神的団結力を啓培し、之を機縁にして永遠に同一郡人たる温かき情誼を保有することが出来る。
- 一 全郡一団として奉仕の体験は、やがて美しき観念を徹底せしめ、数ヶ村若しくは、それ以下の団体に於いて公共遂行を必ず容易ならしむるであろう。個人の思想を善導することにも亦与って力あるを思う。
- 一 前人が郷閔開発の為に経営してきた適切なる事業を受けた我等は、全力をあげて之を子孫に伝えねばならぬ。今農学校発達の転期に遭った現代郡人が普道的に尽労奉仕して好運の盛を庶幾するは意義極めて深刻なるを思う。

土功完成 年譜

12	1923	4月 8日	今井兼寛内務官吏視察	
		4月18日	第2期工期満了	
		5月1日	第3期工期開始 町村長会	
		7月7日	在營兵士土功	
		8月31日	土功竣成	
				9/1 関東大震災
		9月 7日	県係官検分土功正式竣工	
		10月25日		堀田知事交代末松氏へ
13	1924	2月18日	第一本館新築着工	3月松原郡長退職
		8月 1日	第一本館上棟式	
		10月15日	第一本館竣工	
		11月2日	土功碑・頌徳碑除幕式	

土功への参加者

伊香郡役所文書 学事 31

・青年団員	1, 374人	
・農友会会員	778人	
・在郷軍人会員	590人	
・名誉残員公務員	1, 151人	
・一般人民	9, 344人	
・処女会	187人	
・小学児童	4, 045人	
・農学校残員・生徒父兄	1, 002人	
・在営兵士	745人	19, 216
・神職団体・僧侶等	合計	19, 576人

360人不合



土功写真

「奉仕土功」の走り書きがある

江北図書館蔵



土功碑 建立へ

郡の事業

477円(当時)請求

建設実務担当

高橋 長晴

撰文

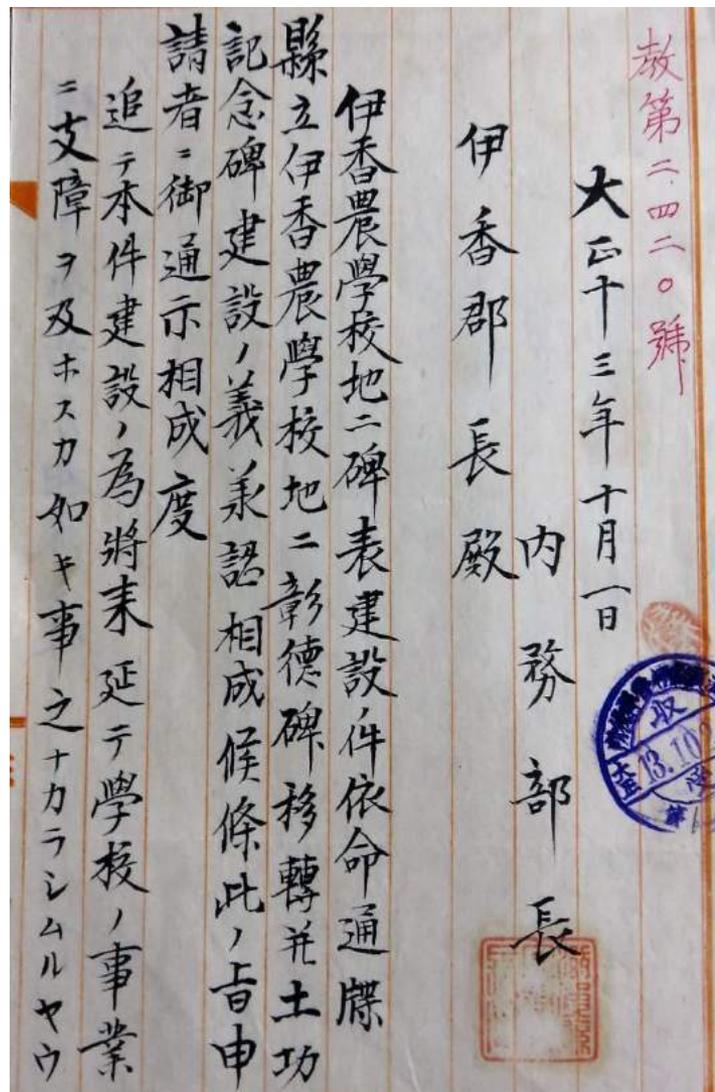
堀田義次郎知事

原稿

坪井咬菜(漢学者)

除幕式

神式



郡長
書記
係

大正十三年十一月二日
於伊香農學校地

除幕式
移建式
案内人名

伊香郡役所

拜啓秋爽之候愈々御多祥奉賀候陳者縣立伊香農學校々地
内に建設中の土功碑並に故小久保金藏氏彰德碑移建竣成
候に就ては十一月二日午後一時土功碑除幕式彰德碑移建
式舉行可致候條御參列相成度此段御案内申上候 敬具

大正十三年十月二十八日

伊香郡農友會長
福田寅吉

殿

追て御來場の節本書狀受付係へ御示相成度申添候

除幕式の郡外からの招待者

末松 偕一郎	滋賀県知事
堀田 義治郎	前滋賀県知事
鵜沢 憲	内務部長（後に静岡県知事）
松原 五百蔵	前郡長 勸業課長
林田 正次	
御影池 辰雄	滋賀県警視
小原 光治	
坪井 咬菜	撰文指南 漢学者
川畑 鑛次郎	揮毫
世間瀬 信次	岐阜県古川町
近山 廣二	長浜農学校長
芳村 茂右エ門	京都市堀川通り石工
半井 清	警察部長
愛知高等女学校長	大谷 懋

土功碑

滋賀縣知事 從四位勳三等 堀田義次郎篆額並撰文

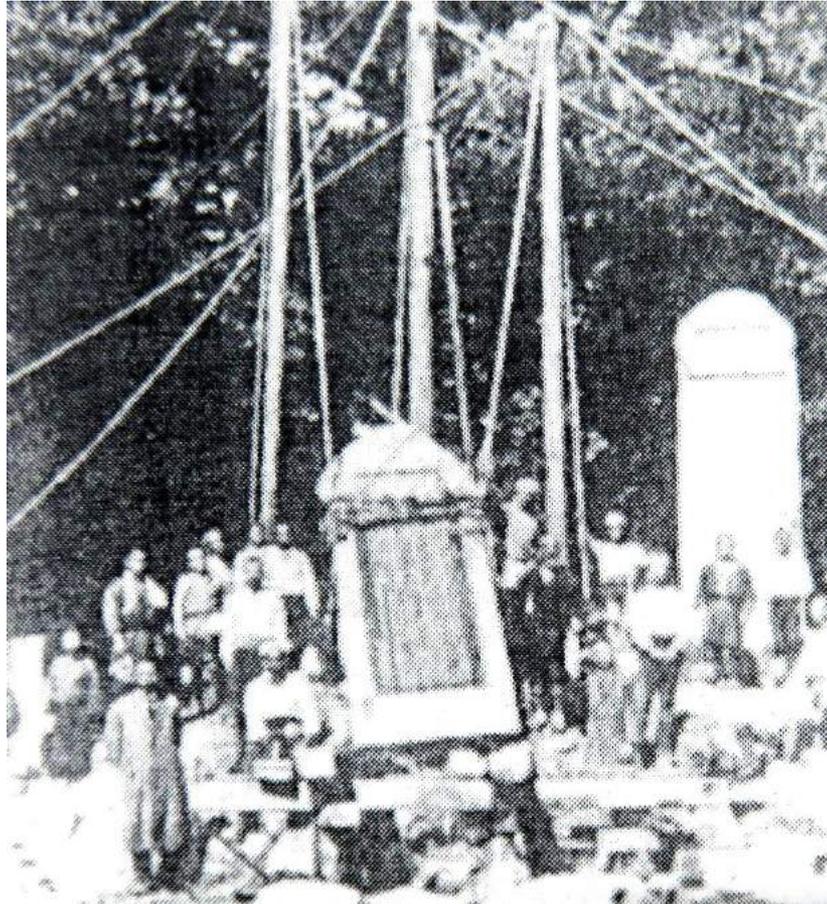
致勞竭誠 (篆額)

伊香郡之地古來多以農爲業明治二十九年數村協同起農學校三十三年更郡立大正十年見郡制廢止法之發布也舉郡懇請移于縣以愈大成之縣素有所見十一年四月改移縣之管理焉舉郡相慶乃驟集金五萬圓平修校地一萬坪請致于縣將起土功也郡長會町村長郡會議員有志者等謀事僉曰此功也宜舉郡致勞役農隙竭誠意永遠也已矣乃同年九月起功名譽職公務員農友會員在鄉軍人會員青年團員處女會員小學校職員兒童農學校職員生徒及父兄神職僧侶在營兵士一般郡民翕然來從事老幼婦女亦不招而至其數實超二萬人豈不復盛哉校地在田神山麓傾斜甚急高低之差及六十餘尺加之土質之硬剗平之艱真在意料之表閱一歲漸爰告成焉從此功者皆戴星出踏月歸不慣力役者亦荷簣推轂不厭其勞一塊土一片石鋤之撤之流汗淋漓精神此凝焉嗚呼一致協力不屈不撓以能建功于至艱完業于公共矣蓋爲海內所罕覩之美舉也四方聞之誰有不感奮興起者那自今而後學此校者亦宜常鑑於此進德修業是則所以承先人之偉業繼公共之精神也余亦屢到場親目睹讚歎不能措乃錄其梗概以垂千

後昆云爾

大正十二年十月十日

土功碑建立の現場写真



提供 雨森俊彦氏(伊香高校同窓生)

郡長 松原五百蔵という人

明治12年10月10日 松原五郎兵衛の二男として出生

明治27年家督相続 (15 年齢を示す)

金田小学校から彦根中学校へ進学

父の死去により退学

明治38年 蒲生郡書記 (26)

明治40年7月 普通文官試験合格 (28)

明治42年3月 県属 (30)

大正3年 村長就任 (35)

大正5年 蒲生郡書記 (37)

大正7年5月 県属 9月依願免官

大正8年12月 内務属 (40)

大正9年10月 伊香郡長 (41)

大正13年3月 甲賀郡長 (45)

大正13年6月 県理事官 勸業課長

大正15年 従6位 退職 (47)

東洋レーヨン就職

昭和2年 滋賀県農会副会長 (後に会長就任)

養蚕組合連合会 養鶏組合連合会 副会長

県乳牛畜産組合長

近江蚕販売組合 畜産組合理事

第22回衆議院総選挙当選
1942年東條内閣
翼賛選挙 推薦無所属



土功は必要だったのか、何のためか

地域の文化・精神性

伊香相救社・伊香病院
江北図書館・学校建設
おこない・観音信仰・・・

報徳思想

大日本報徳会機関紙『斯民』
今井兼寛氏「兵士の土功」寄稿先
農業・蚕業の重要性

松原郡長

苦労人・努力家
リーダーシップ
官僚・農業人脈

郡制廃止の中で、地域の求心力の象徴
後世まで語り継がれる歴史的意義

松原郡長の言葉(除幕式 福田郡長式辞より)

将来如何なる時代になるとも、此郡民の汗と魂とによって作られた校地に建設したる学校の運命は必ず悠久であらねばならぬ。以て永遠に本郡農村の中堅たるべき人材養成の使命を全うするであろう。

農業・林業の衰退 医療・教育の課題
南北格差 少子高齢化 人口減少
限界集落 空き家問題・・・
・・・様々な課題を抱え疲弊する地域

土功記の結び

今や時代は郡制廃止に迫りたりと雖も、伊香郡は依然として伊香郡たることを失わず。民人協力一致の要功は万古渝ることなし。嗚呼此の土功の美しくも尊き極みなる体験と成跡に深く鑒省し、自疆発展のためには永劫力を戮せ声を同ふするは現代並びに後代の伊香郡人に与えられたる特権であり又最高義務であらねばならぬ。

今後の課題やテーマなど

土功碑文の過程・経緯
土功碑建立業者について
高橋長晴という人物
松原郡長の戦後
報徳思想と郡政
学校建設と地元の関係

ご静聴ありがとうございました。
これからも少しずつ調べてゆきます。
ご指導宜しくお願いいたします。